

進路だより

令和7年度 7月
岐阜県立大垣特別支援学校
進路支援部

今回は、卒業後の進路の一つである「福祉就労(就労移行支援事業、就労継続 A 型事業、就労継続 B 型事業)」についてお伝えしました。今回は、「生活介護事業」と「進学」について紹介します。

生活介護事業について

厚生労働省のホームページには以下のように記載されています。

生活介護とは、障害者支援施設等において、入浴、排せつ及び食事等の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他必要な援助を要する障害者であって、常時介護を要するものにつき、主として昼間において、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他の身体機能又は生活能力の向上のために必要な支援を行う。



日常生活や機能訓練をはじめ、創作活動や生産活動の支援を受け、活動します。

入浴、排泄、食事の介護等を受けるとともに、様々な活動に取り組みます。1日の活動の中で、軽作業や余暇活動(運動や音楽活動、創作活動など様々なレクリエーション)にも取り組んでいます。

*作業分のお金を工賃としてもらえる事業所もありますが、義務付けはされていません。

進学について

高等部卒業後に進学する場合、大学、専門学校、職業能力開発校等の選択肢があります。大学や専門学校への進学は想像しやすいと思いますが、職業能力開発校とはどのような場所でしょうか？岐阜県には、岐阜県立障がい者職業能力開発校があります。就労に必要な知識や技能習得のために、障がい特性に応じた職業訓練や就労支援を行う場所です。岐阜県のホームページには、以下のように記載されています。

1. 一人ひとりに合ったスキルの習得をサポート

訓練機器を使用した実習や企業での職場実習を行うことにより、実務能力を身につけます。

2. 社会人として必要なスキルの習得をサポート

パソコン操作や伝票処理などの訓練に加え、ビジネスマナーや自立した日常生活を送るための能力を身につける訓練などを行い、企業で必要とされる人材を育てます。

3. 支援機関と連携し、きめ細やかに就職活動をサポート

「岐阜県障がい者総合就労支援センター」の支援機関などと連携し、就労支援の経験が豊かな職員による就職相談、応募書類の指導や面接練習を行います。

4. 資格を取るためのサポート

就職活動を有利に進めることができるよう、訓練生の希望する職種に関する資格を紹介します。日本情報処理検定など、資格取得に向けた内容を訓練に取りいれています。

5. 寄宿舎を用意し、訓練を受講しやすい環境をサポート

遠くにお住まいの方や公共交通機関などによる通校の難しい方が利用できる寄宿舎があります。

設置されている訓練科は以下の通りです。

基礎実務科	<p>「パソコン基礎」、「簡易事務」、「介護・清掃補助」、「販売補助」などの訓練を行い、持続力、集中力、正確さなど仕事に必要な技能を身につけます。</p> <p><u>取得を目指す資格</u> ○日本情報処理検定4級(日本語ワープロ検定、情報処理技能検定)</p> <p><u>想定する就職先</u> ○事務補助員 ○清掃作業員 ○介護補助員 ○店舗補助員</p>
OA ビジネス科	<p>パソコン操作(ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト)、簿記などの知識と技能を身につけます。</p> <p><u>取得を目指す資格</u> ○日商 PC 検定3級 ○Microsoft Office Specialist ○全経簿記能力検定3級 ○日商簿記検定3級</p> <p><u>想定する就職先</u> ○一般事務員 ○経理事務員 ○総務事務員 ○出荷・受荷係事務員</p>
Web デザイン科	<p>Web ページの制作、印刷物の制作など、専門性の高い実習により、Web 分野、デザイン分野など、企業で活躍できる専門技術の取得を目指します。また、オフィスソフトを利用した事務処理ができる知識と技能も身につけます。</p> <p><u>取得を目指す資格</u> ○日商 PC 検定2, 3級 ○色彩検定 ○Illustrator クリエイター能力認定試験 ○Photoshop クリエイター能力認定試験 ○Web クリエイター能力認定試験</p> <p><u>想定する就職先</u> ○Web 制作技術者 ○Web ページの更新や広告制作ができる事務員 ○デザイン・印刷オペレーター ○一般事務員</p>

応募対象者 障がいのある方で、次の条件をすべて満たしている方

○働くために必要な知識・技能や態度を身につけ、働こうという意欲の高い方

○障がいの状態が安定している方

○集団で訓練が受講できる方

<メリット>

○収入がある。

○同住所に障がい者の雇用に特化した県立ハローワークがあり、在学中から就学先を探すことができる。

県立特別支援学校高等部の生徒を対象に職業訓練体験も行っています。今年度、当校でも職業訓練体験に参加する生徒がいます。高等部卒業後も実践的に学びたいという方におすすめです。岐阜県のホームページに詳しい情報が載っていますので、ご覧ください。

★当校の進学の実際

当校の高等部Ⅲコース(準ずる教育)を所定の単位を取得し卒業すると、大学や専門学校を受験することができます。過去には、4年制大学に進学した卒業生もいます。一方で、Ⅰコース(知的)、Ⅱコース(重複)を卒業した場合は受験することはできません。今回ご紹介した岐阜県立障がい者職業能力開発校は、知的、身体、精神の障がいのある方で募集要項にある応募対象者の条件をすべて満たしている方は、受験することができます。

進路に関する学習の様子

中学部3年生では、生活単元学習で「社会生活にむけて」の学習をしました。最初に高等部の校内作業実習を見学しました。真剣に作業に取り組んだり、丁寧な言葉遣いで報告をしたりしている先輩の様子を見てきました。「作業で大変なことは何ですか?」、「休憩はありますか?」等の事前に考えた質問をしました。その後、高等部が校内作業実習で行っていた作業を体験しました。サドルを10個数える、サドルを磨く、サドルを袋に詰めてラベルを入れる、テープを貼るという工程の作業を分担して行いました。見学や質疑応答、作業体験を通して、中学部の作業学習との違いを感じたり、高等部への進学に気持ちを高めたりする生徒の姿が見られました。



単元の最後に、生活介護事業所「養老福祉作業所」へ職場体験に行きました。作業所での仕事内容、作業所で働く人の様子等の話を聞いてから、作業体験をさせていただきました。「ねじ締め」、「紐切り」、「化粧品の容器作り」、「割り箸の袋詰め」、「空き缶つぶし」の作業を体験しました。複雑な作業に「疲れた。」という生徒もいましたが、働くことの大変さを実感することができました。



7月10日(木)、11日(金)の2日間、高等部 作業製品販売会～ハッピーフェスティバル～が行われました。高等部の生徒が「働く人になろう」の目標に向かって、日ごろの作業学習で一つ一つ心を込めて製品作りに取り組んできました。その製品を保護者の方々、実習先等のお客様に販売しました。

この2日間は、初めはお客様の前では緊張してしまい、上手く製品説明ができないこともありましたが、回数を重ねるごとに「いらっしゃいませ。」「こちらの製品は私が作りました。」と自分から製品説明ができる姿が見られました。販売会に参加した生徒からも、「お客様に製品を購入してもらえて嬉しかった!」、「大きな声で接客できた。」と自信をもった感想を聞くことができました。

この販売会を通して、人とのかわり方や相手に自分たちのことを説明することの大切さを学ぶことができたと思います。引き続き、作業学習を通して生徒の力を高められるよう職員も日々、一緒に精進していきたいと思えます。販売会にお越しいただいた皆様ありがとうございました。

